

## 愛知県認知症カフェサミット 共同宣言について

2019年2月24日、ウイंकあいちにて愛知県認知症カフェサミットを開催しました。

当日は、認知症のご本人やご家族、医療・介護・福祉関係の専門職の方、地域で認知症に関する活動に関わっていらっしゃる方や住民の方、学生の方など、参加者は400名以上となりました。

閉会の際に、認知症カフェについて以下のとおり共同宣言しました。

だれもが当事者 じぶんごと  
みんなでつくろう 住みよい地域  
カフェでの交流楽しもう！



## 宣言内容に寄せて

午前の全体会では、武地先生の講演で認知症の基礎知識について理解を深めました。認知症という病気やその対応は簡単なものではないけれども、コツはたくさんあることや、相談できる人や仲間を見つけて、自分一人で抱えずに、ゆっくり焦らず、無理せずに歩いていくことが大切であることを学びました。認知症カフェは、相談できる人や仲間を見つけるための一助になることでしょう。

シンポジウムでは地域とつながった認知症カフェや、対象者を限定して同じ立場の人同士の話し合いを重視しているグループなど、様々な認知症カフェの話を聞きました。利用者としては自身の好みやその時の状態などによって、行きたくない認知症カフェは違うかもしれません。そのため、認知症カフェにはいろいろなタイプがあってよいし、また、いろいろなものがあつたほうが良いことを皆で確認しました。また、利用する人が自分に合った認知症カフェを選ぶことができるよう、認知症カフェのスタッフ・関係者は自分のところは「どんな特徴がある」とアピールしていくことが必要ということに気が付きました。

午後の自主企画では、実際の認知症カフェでの様子を実際に体験したり、認知症カフェについての様々な情報を得ることができました。また、パネル展示や交流会では、認知症カフェの運営者同士の交流が広がるのみならず、いろんな立場の方がお互いに情報交換・意見交換を行って、認知症のことを考える際には地域のそれぞれの人が「じぶんごと」として、みんなで考えていくことが必要なのだと再認識しました。

これらを踏まえ、認知症やその対応については、地域の誰もが当事者であり、じぶんごととして捉えて、みんなで住みやすい地域を作っていくことが大切だと考えました。また、今回様々な立場の方が交流してお互いに理解し合うことができたことから、これからも交流が重要だと考えます。認知症カフェはその交流の拠点として重要な場所になるでしょう。

参加者が自身とマッチする認知症カフェに出会って認知症カフェでの交流を楽しめること、スタッフも共に楽しんで無理なく運営を継続していくことで、認知症カフェが定着していくことを望みます。

以上から、このような共同宣言としました。

この、愛知県認知症カフェサミットをきっかけに、地域で笑顔の輪が広がることを願っています。

(愛知県認知症カフェサミット)